

外来採血での取り組み

◎青地 祐¹⁾地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院¹⁾

【はじめに】

近年、臨床検査技師が採血業務に携わる施設が増加傾向にある。その背景には、検体の取り扱いや採血手技が検査結果に与える影響を軽減するために、検査前プロセスを熟知している臨床検査技師が採血業務に携わり質を保証する目的がある。当院では、外来採血室（以下採血室）にて看護師と協力して採血を行い、臨床検査技師が採血室の管理・運営を行っている。

採血室では患者の待ち時間を減らし、安全かつスムーズな採血を行い、検査室は診察までに行き届く限り早く結果報告することが求められる。そのためには、採血業務者の質向上を目的とした取り組みだけでなく、採血室の環境改善や運用変更も行う必要がある。今回我々は、採血室の管理・運営の見直しによりフレキシブルで効率的な運用改善を行った取り組みについて紹介する。

【課題】

- ・外来患者数に見合った待合スペースの確保。
- ・午前中（特に始業時）の採血待ち時間の短縮。
- ・車椅子患者の採血所要時間の短縮（移動・介助に要する時間削減）。
- ・多部門連携による採血業務のフォローアップ体制の構築。

【取り組み】

新型コロナウイルスの流行により、3密回避が求められ待合スペースの拡張を行った。拡張したスペースには案内板を設置し、順番待ちの進捗状況が分かるようにした。また、混雑時は待ち時間の少ない検査へ患者を先行案内することで待合スペースに必要以上に患者が留まらないようにした。車椅子患者の採血が混雑を助長し、待合スペースを圧迫していたため、院内で協議を行い、採血室とは別の場所に車椅子患者専用の採血室を新設した。午前8:30~10:30の間は、専用の採血室で看護師が採血を行う運用とした。さらに、検査室として採血業務の体制を検討し、検査室すべての技師が採血を実施できるように教育した。

【効果】

待合スペースを拡張し案内板を設置したことで、受付から採血呼び出しまでの流動性が向上し、混雑の緩和に繋がった。また、採血以外の検査がある場合は、他の検査へ先行案内することで、混雑緩和に加え採血待ち時間を有効活用し、効率化が図れた。看護部の協力により、別の場所に車椅子患者専用の採血室を設けたことにより、時間を要していた車椅子患者の採血時間が減少し、採血室待ち時間が短縮した。採血を検査室すべての職員ができるようになることで、各部門の混雑状況に合わせてフレキシブルな人員配置が可能となり、採血室のフォローのみならず採血室から看護部門も含めた各部門へのフォローが可能な体制を構築した。

【結語】

待合スペースの拡張により環境改善を行い、混雑の原因になっていた車椅子採血を院内で協議・模索し看護部と連携をすることで、待ち時間の短縮が実現した。

採血は検査部全体で取り組む共通業務と位置づけ、採血業務を軸に人員配置ができる体制が構築できた。検査室だけでなく、看護部門への人員の供給へもつながり必要な時間帯に必要な人員を流動的に配置することが可能になった。

検査室内から積極的に課題を発信し、他部署と協議・協力することで、検査室だけでは実現不可能であった運用や取り組みを実行でき、採血業務のタスクシフト・シェアを行えたと考える。

連絡先 054-247-6111（内線：8174）